

# 実話をもとに生まれた 珠玉のオリジナルストーリー

沖縄の離島、南大東島。この島には高校がなく、15歳の春に島を出て、家族と離れて暮らさねばならない。実在する少女民謡グループ“ポロジノ娘”は、中学卒業の春、「アバヨーイ(さようなら)」を家族への想いを込めて歌う。

子どもを送り出すすべての親と、親から巣立つすべての子どもが共感せずにはいられない、完全オリジナルストーリーの感動作が誕生した。



## 大好きな島、ずっと一緒に暮らしていた父、なかなか会えない母…… すべての想いを島唄に込めて、旅立つ十五の春

中学3年生になったばかりの仲里優奈。父はさとうきび農家を営み、母は兄や姉が進学するときに那覇に渡ったままなぜか戻ってこない。家族は既に壊れかけていた。優奈も1年後には高校進学のために島を出なくてはならない。ずっとふたりきりだった父との残されたわずかな時間、父をひとり残して那覇へ行く罪悪感、那覇での暮らしの不安と憧れ、淡い初恋、そして家族みんなと一緒に暮らしたいという想い……。おとなになるには早すぎる年齢で人生の岐路に立つ15歳の春を迎えるまでの、父と娘、母と娘の1年間が丹念に描かれる。



## 新星・三吉彩花の輝くばかりの魅力 名優、小林薫と大竹しのぶが作りあげた“家族”

南大東島の物語を丁寧な取材を経て脚本化し、監督したのは吉田康弘。井筒和幸監督作品脚本家としての評価も高い。主演には毎日映画コンクール・スポニチグランプリ新人賞を獲得した三吉彩花。実際に15歳で撮影に臨み、少女の揺れ動く気持ちを体現。本作では三線、民謡にも挑戦し見事な歌声を披露している。寡黙でいて温かな眼差しで子どもたちを見守る島人の父を小林薫が唯一無二の存在感で魅せ、大竹しのぶが母としての強さ・優しさ、複雑な心の葛藤という難しい役どころを演じ切った。そして、主題歌としてBEGINが本作のために書き下ろした新曲「春にゴンドラ」がエンドロールを飾る。



# 旅立ちの島唄 ～十五の春～

三吉彩花 / 大竹しのぶ / 小林 薫

監督・脚本：吉田康弘 主題歌：BEGIN「春にゴンドラ」(タイタスエンタテインメント)

製作：「旅立ちの島唄～十五の春～」製作委員会 2012年/日本/カラー/114分/シネスコサイズ

配給：ビターズ・エンド ©2012「旅立ちの島唄～十五の春～」製作委員会

www.bitters.co.jp/shimauta

### ■アバヨーイ

村役場職員である濱里保之氏が「子どもたちが島と親に感謝し、原点を忘れず、夢と希望を持って小さな島を旅立つ想い」を綴った曲。この曲が生まれたのはわずか15年ほど前だが、卒業するポロジノ娘が毎年歌うことで島の春に欠かせない別れの唄になった。本島への船が島を離れるとき、この曲が流れる。



### ■南大東島

沖縄本島から東へ360km、那覇から飛行機で約1時間、船で13時間かかる絶海の孤島。人口約1300人。約110年前に八丈島からの開拓者により拓かれ、以来さとうきび栽培を基幹産業として発展。外海に囲まれ波が高く船が接岸できない為、クレーンを使って乗降する。



## 「コザ×桜坂」シネマコネクション

5/13(月)～18(土) 沖縄市民小劇場あしびなー

上映時間 = 11:00/13:45/16:30/19:30

●共催：NPO コザまち社中 ●コリンザ内駐車場をご利用下さい(5時間無料)

問合せ：桜坂劇場 098-860-9555 沖縄市民小劇場あしびなー 098-934-8487

●FunC 会員 1000円 FunC 会員月曜 800円

●火曜レディース 1100円

●当日券：一般 1600円 シニア 1100円

高校・大学 1300円 小中学生 1000円

幼児(3歳以上)600円

★前売 1200円発売中!

<プレイガイド>桜坂劇場窓口/あしびなー受付  
ファミリーマート・イープラス